

品目の見直しで露地野菜の大規模経営を実現 ～地域の担い手育成にも大きく貢献～

南知多町 堀江泰之氏
露地野菜（キャベツ等）

【平成28年1月20日掲載】

品目の見直しにより露地野菜の大規模経営を実現するとともに、地域の担い手育成にも大きく貢献している、南知多町の堀江泰之さんをご紹介します。

工業高校から農業へ転身

堀江泰之さんは南知多町の露地野菜農家の三男として育ちました。最初から農業を目指したわけではなく、工業系の高校に進学しました。

しかし、二人の兄がともに農業に就かなかったことから、高校在学中に農業を継ぐことを決意。高校卒業後、種苗会社の附属専門学校で1年間、農場での実習を中心に農業の技術を学び、19歳で就農しました。両親とともに露地野菜生産に取り組む日々の始まりです。



堀江泰之さん

品目の見直しに着手し、大規模経営を実現

「就農してしばらくの間は、言われた作業をこなすだけで、意欲がなかった。」と当時を振り返る泰之さん。「一時は、やめようと思ったこともあった。」とのこと。

ところが、30歳を迎える頃、「このままじゃあ、いかん。」と一念発起。幸い、父も先進的な経営者で、当時から機械装備は揃っており、規模拡大のための環境は整っていました。

泰之さんが目をつけたのは、労働ピークによるボトルネックです。「当時は、労働面をあまり考慮せずに経営していた。」とのこと。定植作業は機械化されている一方で、収穫は手作業のため大きな負担となっており、規模拡大の制限要因となっていました。

泰之さんはこうした視点から品目ごとの労働生産性の検討を重ね、カリフラワーとサニーレタスの面積を縮小し、品目をキャベツ、ブロッコリー、タマネギに集約して規模拡大すべきとの結論に達します。しかし、当時、カリフラワーは1.5ha、サニーレタスは1haの主力品目であり、父の理解はなかなか得られませんでした。それでも泰之さんは4～5年かけて粘り強く説得し、ようやく理解が得られて実施がスタートします。今では、キャベツ5ha、ブロッコリー4ha、タマネギ2haを中心とした大規模経営が実現し、経営規模も就農時の5haから、倍以上の12haにまで拡大しており、新たにタマネギ定植機の利用などにも取り組んでいます。



タマネギ定植機

使命感を持って、地域の担い手を育成

こうした実績もあり、泰之さんは34歳で父から経営移譲を受けました。

やがて、地元の青年が「農業をやりたいので、研修させてほしい。」と泰之さんを訪ねてきます。泰之さんは「自分を頼ってきてくれている。」と感じ、二つ返事で引き受けました。研修期間は基本的に2年間。これ以降、泰之さんの経営において、研修生が途切れた年はありません。現在の研修生で4人目。今までに泰之さんの下で研修を終了した3名は、いずれも地元で就農して露地野菜経営を始めており、地域の重要な担い手となっています。

青年就農給付金(準備型)の研修機関としても認定されている泰之さんに、地域の担い手育成に積極的に取り組む理由を尋ねると、「使命感かな。」という返事が返ってきました。「できるだけ研修生と一緒に作業することに心がけ、会話の中にもヒントを交えている。」とのことで、「就農してからわからないことを聞きに来てくれたり、こちらから見に行ったりしているんですよ。」とうれしそうに話される笑顔が印象的でした。

また、現在、泰之さんは4名を周年雇用しています。特徴は、いずれも60歳を越えた定年退職者。「中には、農地のある人が、農地ごと持ってきて雇用者になるケースもあるんですよ。定年後、新たに設備投資して自営を開始することは困難と考えられているんです。」とのこと。地域の労働力の受け皿としても大きく貢献していることが垣間見えました。

人脈と口コミで契約取引を推進

泰之さんに、販路について伺ったところ、ほとんどが加工・業務向けの契約取引とのこと。販路確保のポイントは、「実需者とのニーズのすり合わせに心がけ、信頼されるものを生産していれば、人脈を通じて、口コミで伝わっていく。基本的に『来る者は拒まず』ですけどね。」と笑顔で答えていただきました。

今年は11月以降の気温が高く推移しているため、秋冬野菜の生育が著しく進んでおり、取材当日(12月14日)には既に2月収穫予定のプロッコリーが穫れ始めていましたが、「市場価格は暴落している。契約取引していて良かった。」と胸をなで下ろしてみえました。

一層の経営発展に向けて

これまで順調に規模拡大を進めてきた泰之さんですが、将来的には「20ha程度まで拡大したい。」との展望を持ってみえます。そのためには、さらなる労働力と販路の確保が必要となります。泰之さんから「今後は若い従業員を確保し、管理を任せられる責任者を育てることも考えたい。」との構想もお聞きすることができました。

最後にPRをお願いすると、「知多半島の温暖な気候を利用して、加工・業務用に適した品質の野菜を生産しているので、取引したい方、研修を受けたい方、よろしくお願ひします。」と、力強く語っていただきました。



加工・業務用に適した生産物

執筆：農業経営課

取材協力：知多農林水産事務所農業改良普及課